

実践報告

札幌市立北の沢小学校

(1) 研究内容

研究課題：サッポロピリカコタンを活用した学習の研究

- 豊かな体験や考える場・実践の場を通して生命尊重と相手の人権を尊重する心、好ましい人間関係の確立や社会性を育成する。
- 自然や人間の尊さを知り、他人の痛みが分かる心の優しさ・情操を育成する。

(2) 実践の内容

【実践①】 サッポロピリカコタンで学ぶ「自然と人の心」（社会科）

○ねらい

アイヌの人たちの歴史や文化を理解し、自然と共生した生き方について理解を深める。

○学習内容

- 1) 4年社会科：「昔から今へと続くまちづくり」における中単元1：「アイヌの人たちの生活と文化」の学習と関連させてアイヌ民族の自然観や衣食住等の暮らしに関する調べ学習を進める中で、歴史や文化について理解する。
- 2) 資料を活用し、簡単なアイヌ語の言葉について理解する。
- 3) アイヌ紋様を切り絵で表現する活動を通じ、その構成の美しさに触れる。また、紋様に込められた意味について知る。
- 4) アイヌ文化交流センターの活動プログラムを基に、訪問見学の準備をする。
- 5) 札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」で見学・体験活動を行う。
 - ・歌や踊り、子ども遊びを体験する活動を通じてアイヌ文化に親しむ。
 - ・アイヌ民族の方から歴史や文化に関する講話を聞き、人権意識を高める。



切り絵でアイヌ紋様を製作する活動



切り絵で表したアイヌ紋様



楽器：トンコリによる音楽鑑賞



子ども遊びの体験



「歴史の森」の見学

- ・施設見学を通じ、展示物の見学や民具等の実物に触れたり体験したりしながら、アイヌ文化と歴史について理解する。



展示物の見学



情報コーナーでの書籍閲覧

- 6) アイヌの人たちの暮らしや文化について学習したことをレポートにまとめ、校内に展示・発信する。



【実践②】「自分らしく生きること」の大切さを学ぶ（道徳）

○ねらい

人権の基本について学び、「自分らしく生きる」ことやそれが大切にされる社会について考える。

○学習内容

- 1) 子ども未来局配付パンフレット「大切にしよう子どもの権利」を活用し、人権および子どもの権利にかかわる4つの権利（安心して生きる・自分らしく生きる・豊かに育つ・参加する）の大切さについて考える。
- 2) 実践①で学んできたアイヌ文化に関わる学習と関連させ、「自分らしく生きる」ことや「差別がなく、お互いを大切にできる社会」について話し合うことを通じ、自分たちや他者の人権の尊重について考える。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- 本事業および研究に継続して参加してきたことで、本校では社会科や総合的な学習の時間、道徳における学習単元・題材として4学年の教育課程に確実に位置付いている。
- ピリカコタンの体験活動プログラム（講話・音楽鑑賞・舞踊・遊び・引率見学・質疑で2時間）が、時間・内容ともに大変効果的であった。グループで行う午後の見学・調べ学習と併せることで、アイヌ文化への関心を一層高めることができた。
- 本事業を体験した児童（現4年生および5・6年生）の中には、図工の版画製作時においてピリカコタン見学の様子やアイヌ民話絵本の挿絵などを積極的にモチーフにする例が見られ、アイヌ文化への関心が高まっている姿が見られた。

② 課題

- 【実践②】にかかわっては道徳の教科化に伴い、教科書の教材とどのように連携していくかについて吟味が必要と考える。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 【実践①】に関わり、ピリカコタン訪問を含まない学校の場合、出前体験プログラム事業への申請やアイヌ伝統・文化資料の借用、講師の招請という様々な場を積極的に取り入れていくことを推奨する。各種絵本や切り絵、子ども遊びなどで低学年からアイヌ文化に触れ、親しむ場を設定することも効果的である。